

皆様、良い年明けを迎えられたことと思います。今年もアーティストと共に展覧会を企画、紹介していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新年号、一月のニュースレターでは、2015年1月15日(木)から2月22日(日)までギャラリーいろはにおいて、個展、“Scenery in Japan”を開くオランダ人アーティスト、YANA POPPE (ヤナ・ポップ)を紹介しします。

ヤナ・ポップ(ジャカルタ、1983年)は2012年にオランダ、フローニンゲンのミネルバ・アカデミー(Academie Minerva, Groningen)、視覚芸術科を卒業。

ミネルバ・アカデミー3年時(2011年)に日本の名古屋造形大学との交換プログラムに参加。卒業後、美濃ペーパー・アーティスト・レジデンスにおいて伝統的な和紙作りの技法を学ぶため、2013年に再び日本へ渡る。その後、彼女の思いは再び日本へと戻り、2014年8月にアートスタジオ五日市で日本の伝統的な版画技術を学ぶため、三度目の日本へ。版画制作、最終プレゼンテーションの展覧会を終えて帰国。

## アトリエ訪問:

2014年4月17日に私はフローニンゲンにある彼女のスタジオを訪問しました。彼女のスタジオはその昔、病院として使われていた建物の中に位置し、彼女のアトリエには彼女の名前が日本語で書かれた和紙の提灯が掛けられていて、日本との行き来を物語っていました。彼女の住まい兼アトリエはコンパクトで明るく、彼女が制作に使う簡素な作業台には彼女が制作に使う日本画用の筆や顔料が並んでいるのが印象的でした。古いものから最新の作品までを見せて頂く機会に恵まれ、彼女の作品の変化、例えば、内側に向かっていた視点が外側にある風景、特に街の風景へと向かっていく過程を追うことができました。2011年以降、ヤナは伝統的なそして同時に現代の日本建築やインテリアを描いています。

色と形のコンビネーションおよびコンポジションは彼女の絵を力強く、またとてもユニークなものにしています。目立つひとつひとつの色は思いの外静かな画面を構成しています。それは、彼女の静かな観察眼からくるのです。彼女の作品には彼女がどれだけ日本のアートと文化に触発されたのかを見ることが出来るでしょう。



ヤナ・ポップ、アトリエにて



ヤナのアトリエの一角

Uitgave No. 15  
Januari 2015

Colofon

Mamiko Nagatomo  
Hans Langen

### 日本・美濃ペーパーアーティスト・レジデンスでの経験:

“Japanese interior”は私の日本建築への関心について描いています。名古屋、東京は私が訪れた中で最も大きな都市。長い間、私は「大都会」に憧れてきたので名古屋に住むことになった時に私のひとつの夢は叶ったのです。その点で対照的な美濃は丘陵風景の中の川沿いに位置する小さくて静かな街。中心街は現在も江戸時代に起源を遡る古い家並みで構成されています。私はまた、日本のこの側面を発見することに対してもとても意欲的でした。伝統的な日本建築に毎日囲まれているということは特別な経験で、私はまるで映画のセットの中に降り立ったように感じました。私のアトリエはこれらの家並みの中のひとつにあったので、屋外と同様、屋内にもまたこの感覚を得ました。沢山の紙の窓と扉(障子)のある木の床と壁をとても美しいと感じ、部屋のレイアウトと共に“透明な”建築として全体像を把握しました。私が立っているある地点から、一番遠くの部屋を見ることができたのです。

日本では私はまるで別世界にいるように感じました。ベルリンに住んでいる日本人アーティストは、“それは「浮遊世界」のようだ”と述べたのですが、たぶん私は日本で、同じ感覚を得ました。それは、違った種類の現実。もちろん、多くの「同じ」こともあります。私がオランダでも経験したことが。しかし、全てが少しだけ、どこか違う、簡単なものを上げれば丁度、道のように。沢山の電線が頭上に掛かっている道。そして時にはもちろん困難なコミュニケーションをオランダでも体験しますが、これに対し、私は日本でのコミュニケーションもとても快適に感じます。より静かでより調和に重点を置いている。友人関係だけでなく、また学生と教師の間においても。

私は場所や建築物の写真を撮ることによって私の絵のプロジェクトを始め、そこにおいてコンポジション、構造、奥行きに注目します、また私は場所の特徴が何であるかにも焦点を当てます。美濃には伝統的な家屋がありましたが、更に散策をした後、どんな風にその間に現代の建築が目につかない様に建っているのかを見ました。この観点から美濃で制作した作品“FALL”のために私は既にある伝統的なものの中に“現代的な”場所を導入したのです。

私は何が既にそこにあったのか、そして絵の中でそれが強化又は変化されていることを示したいのです。抽象性は構造、線や形を強調するための論理的な帰結と言えます。それは現実を隠すために意図するところではないのですが、私は“現実”に全く焦点を当てていないと言わなければなりません。私が表現したいものは現実から来る特定のものなのです。

私は描いている時それを建築家の様に解析しているか、あるいはまた丁度それを構築しているように感じます。私は比率(関係)、空間においての洞察を得たいと望み、そして恐らくどこに正確な美があるのかを見つけたいのです。色の助けを借りて、私は建築物の特色の概要を得ることを試んでいます。但し、この過程で私はどのように特定の色を置くかを認識しています。



“Mino Lightboxes”, 2014 ヤナ・ポップ、美濃和紙、木/ 10x12x8cm



「枕屏風」2013年、美濃、ヤナ・ポップ / 顔料、大判手漉き和紙、水干絵の具、にかわ/ 45x180cm

インスピレーション 日本:

未知の形、標識や言葉(日本語)に囲まれていることをとても感動的に感じます。不思議なものを見るということは、私に私が見る方法を自覚させてくれる上に、私がどこに魅了されるのかを更に強く感じさせてくれるのです。長い間、現代建築を美しいと感じてきました:直線に次ぐ直線の建物。今でもまだ私は作品において建築(様式)に見る構造に焦点を当てています、またそれ以外の面でコンポジションと重なり合いに。私は紙と画像をある平坦な二次元としてみなし、できるだけ遠近法を避けます。そこには著名な日本の版画、又は現代漫画の影響があると言えるでしょう。多くの重点はどのように平面を埋めるか、線、色を加えるかに置かれています。レイヤリング(層を重ねること)は私のアートのもうひとつのテーマです。美濃以来、明かり(和紙製スタンドライト)製作の為に、様々な色の和紙を配置することから始めたレイヤリングに力を入れて取り組んでいます。色が大変重要だと言うことは既に述べましたが、色は私の魅了された構造、フォルム、そしてコンポジションを概して表現するための媒体なのです。加えて、色はある特定の「感覚」または雰囲気表現できると信じます。絵やプロジェクトによって私は特定の基調色を選択します。それはある特定の場所における私の記憶に繋がっているといえるでしょう。多くの場合、それは記憶、歴史そして現実性の組み合わせです。描いている間、私は異なる色を加えますがこれは画像そのものに依存することが多いのです。従って、多くはコンポジション、バランスとアンバランス等と共に考察されます。

ヤナ・ポップ (Yana Poppe) は、今回の個展で彼女の新作である絵画、美濃ライト・ボックス、そしてまた2014年にアートスタジオ五日市で制作した版画を合わせて展示します。彼女の作品との出会いはオランダと日本の影響、クラフトマンシップとの出会いにも繋がることと思います。ご高覧頂けたら幸いです。



## 個展 “Scenery in Japan” ヤナ・ポップ (Yana Poppe)

2015年1月15日(木) ~ 2月22日(日)  
オープニング・パーティー: 1月18日(日) 15:30 ~ 18:00  
ヤナ・ポップ在廊

開廊時間: 木~土曜日、11:00~17:00  
月の第一と最終日曜日、12:00~17:00  
皆様のお越しを心よりお待ちしております。

展覧会の案内状、ニュースレターをご希望の方は「案内状と・またはニュースレター希望」としてお名前、住所を明記の上下記メールアドレスまでお知らせ下さい。皆様からのお便りお待ちしております。

Galerie Iroha

Voorstraat 487 3311 CV Dordrecht The Netherlands

Tel. +31 (0)78 611 9835 / fax. 078 611 9836 / info@galerie-iroha.nl / www.galerie-iroha.nl